



## 勉学の秋、読書の秋

本号は新企画として、利用者から書評と「私と本」をテーマにしたエッセイを載せています。書評は加藤学科長、エッセイは学生2名と事務局長からいただきました。人がどんな読書を好んでいるのかが分かって大変興味深い記事となっています。勉学の秋、読書の秋の参考にしたいかがでしょうか。

本号の項目：図書館長に就任して、カウンターより一言アドバイス、書評、文献検索のためのURL、係員交代のお知らせ、私と本、希望図書の購入結果、寄贈図書一覧、貸出ベスト5

## 図書館長に就任して

関谷 伸一

今図書館は大きな転機にさしかかっているように思えます。言うまでもなく電子メディアの問題です。どこの図書館でも、電子図書館という言葉で言われるような状態を指向し始めています。本や活字はどうなるのでしょうか。インクが電子に置き換わっただけ、とでも言うのでしょうか。おそらくこれは図書館というより、これからの人類の文明のあり方の問題、かもしれません。とりあえずは検索効率を上げるためにも、データベースの電子化は必須であり、強力に推進していかなければなりません。

ところで私の本棚には、教材用の自作のビデオテープが、陽の目を見ないままほこりにまみれています。これらはベータ方式のテープです。現在はVHS方式が主流となり、再生装置そのものが手に入りにくくなってしまったのです。相応の再生装置がなければ、情報は無いことと同じです。コンピュータを用いた電子化された情報はどうでしょう。かつての天才達の脳は、たとえホルマリン付けになっても、その中に詰まっていた情報は決して再生できません。ただ、無事残された彼らの活字による作品のみが今でも光り輝いています。このコンピュータ化の激流の中でも、インクで表された活字の良さは、捨て難いと思うこの頃です。

## カウンターより一言アドバイス

カウンター横にある利用者用検索端末機で、せっかく希望の図書を見つけ出したにもかかわらず、その配架場所(図書が並べてある場所)が分からず、長時間館内を探し回っている方をよく見かけます。尋ねてみると、画面に表示された図書のタイトルと登録番号だけをメモして探されています。登録番号は当館において受入順につ

けられた番号であり、配架場所を示すものではありません。端末で検索後、詳細表示の画面から「請求記号」の欄を探してください。その番号がその図書の場所を表しています。後はその番号の棚を探してください。

貴重な時間を無駄にしないよう、上手に使ってください。

← 詳細表示を出した後、次画面(f・6)に入った画面

画面、中段辺りの「請求記号」に表示されてある数字が配架場所となる。

《図書検索》 総合検索 (詳細表示) 2/4

検索条件: 1. 図書 2. 登録番号: 001001363 3. 記号: 記号に関する文献

分類記号1	Q10.31.....	出版年月日	1970.....
分類記号2	Q10.31-N71.....	国名	JP
請求記号	N71.....	言語	JPN
著者	東京	ページ数	64p
題名	図書館短期大学図書館研究会 日	通巻区分	25cm
出版者			¥

戻る 前画面 次画面

## 書評

♪暇な時、ちょっと手にして、そうだ、そうだいいながら読める本♪

加藤 光宝

### 『ナースの法則200 ベテランナースのよりどころ』

監修：井部俊子、編集協力：川島みどり、宮古あずさ 日本看護協会出版会 1998

何気なく手にして読んでみると、看護婦である自分をいたわったり、ほめたり、胸がすかっとするという思いをしたり、とにかく楽しめる本を紹介してみます。くつろいで、寝転びながら、看護の本を読んで、いつもの、こつてりと濃い看護の教科書から逃げ出してみませんか。今年、7月20日に発売されたピッカ、ピッカの本です。「看護技術のコツ」「リアルな看護管理」「賢い病状の見方」「間違いのない患者の見方」「コミュニケーションのかなめ」「快活な仕事への姿勢」「たのしい人間論」のタイトルで200の法則をまとめたものです。最初の法則は「看護婦が疲れない体位変換は患者も安楽」というように、臨床のさまざまな体験が簡潔に法則として、書かれているのです。ポケットサイズのおしゃれな花柄の装丁にもくいい。

編集は聖路加国際病院の副院長兼看護部長の井部さんです。川島みどり先生は本学の前学科長の親友で、看護界では著名なご意見番的存在の方です。宮古あずささんは、若手の臨床看護婦のホープです。また、執筆者の一人に本学の秋山智弥助教授も加わっています。執筆者は看護界の老若男女・顔見せのおもしろさも読みどころの一つでしょう。

## 文献検索のためのインターネットホームページ

～今すぐ役立つ、文献データベースの紹介～

### ① 雑誌記事検索

<http://www.healthgate.com/HealthGate/MEDLINE/search.shtml/>

MEDLINE を無料で検索できる。ページ中ほどの Advanced Page をクリックすれば複数のキーワード、著者名、出版年で掛け合わせた検索も可能。

<http://www.ahs.kitasato-u.ac.jp:8080/docs/doi/html/kantoku/html>

北里看護大学看護学部図書館雑誌特集記事索引。同図書館で所蔵している看護雑誌の特集のタイトル（個々の論文のタイトルではない）を検索できる。同大学医学部図書館のホームページからは医学関係特集記事が検索できる。

### ② 書籍検索（図書単位の検索）

[http://www.trc.co.jp/trc-japa/search/trc\\_www.asp](http://www.trc.co.jp/trc-japa/search/trc_www.asp)

図書館流通センター（TRC）による書籍検索のためのページ。1980 年に刊行された新刊書籍を検索できる。

<http://www.books.or.jp/>

同じく書籍検索のページ。こちらは日本書籍出版協会によるもの。現在入手可能な書籍の検索ができる。『日本書籍総目録』の web 版といったところ。

### ③ その他

<http://www.nurse.or.jp>

日本看護協会のページ。文献検索のサイトをまとめたページがある。

①の MEDLINE と②の TRC へはここからリンクされています。

今回は無料で検索可能なサイトを紹介しましたが、『看護と情報』Vo.5 には有料も含め、看護に関する文献検索に役立つサイトが詳しく紹介されているので参照ください。

## 係員交代のお知らせ

7 月 17 日に 17 時以降と土曜日の図書館業務を担当していたただいた、高寺尚武嘱託員が都合により退職されました。高寺さんには時間外延長を実施した当初から勤めていただき、学生はもとより図書館職員も大変お世話になりました。最後にこれまでの感想をいただきました。

+++++

嘱託員として 3 年 3 ヶ月目、楽しく勤務できましたことは、喜びとし、感謝の外ありません。およそ、縁の遠かった図書館でしたが、整った整備、すばらしい環境の中で勉強できる学生は本当に幸せなことと思います。初めて親元を離れての第一歩、各々看護の道を志し、日々自学研鑽、真剣な眼差しで勉強に励む姿を目の当たりにして感動させられました。終わりに、より一層勉強に励み、これからの看護の担い手として各々の場でご活躍を期待します。

（高寺）

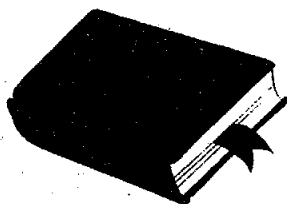
8 月 18 日からは新たに、太田尊文（おおた・たかふみ）さんと秦野忠男（はたの・ただお）さんの 2 名が 17 時以降と土曜日の図書館業務を担当しますので、よろしくお願いします。

## 私 と 本

☆☆ 静かな時間 ☆☆

看護学科3年 本名江里子

起きると同時にさまざまな音に出会う。「今日も1日頑張るぞ」と気合を入れ眠い目をこする。時間とにらめっこをしながら朝食を食べ、身支度をし・・・ドタバタと騒がしい時間が流れていく。ドアにかぎをかけ、車を運転しながらお気に入りの音楽を聴く。頭の中では1日の計画があれこれと刻まれていく。



このようにさまざまな音の中での生活が続き、ホッと一息つくとき、私は好きな本を読む。静かな静かな時間である。1週間のうちのほんのつかの間のストレス解消。

もともと本を読むのは好きだが、「よし、読むぞ」という気はない。自分の気持ちに合ったとき、静かな落ち着いた時間が訪れる。誰にも邪魔されない大好きな、大切な時間である。漫画でも推理小説でも恋愛物語でもどんな本

でも良い。気にすることはない。

忙しく過ぎ去っていく毎日の生活の中で自分自身を見失わないために、私は大好きなこのホッとできる静かな静かな時間を大切にしていきたい。

☆☆ 今は、本と格闘しています ☆☆

地域看護学専攻科 綾

私は、正直なところ読書は苦手です。しかし、ここ1～2年「学生の間に、本をたくさん読んでおきたい。」という気持ちが強いのも事実です。なぜかという、読書家である友人達と接する機会が多かったからです。彼女らは実に感性・情緒が豊かで、自分の心に合う言葉が述べられない私に対し、この言葉以外考えられないという様な言葉で理路整然と述べていくのです。「どうしたら、そのようなことができるのか？」と彼女らに聞いて回ったところ、共通項目は<読書好き><かなりの冊数を読みこなしている>というものでした。それから、まず先生方が授業中に紹介する本の中で、自分の興味があるものを読み始めてみることにしました。口語調に慣れてしまった私の頭は、理論的な文語調に馴染めず、苦痛を伴うことが多いです。しかし、「これもいつか私のものになっていくのだ。」と信じ、友人達のようになれることを夢見て、本と格闘しているのが今の私です。

☆☆ 私と本 ☆☆

事務局長 田中宏樹

静かな日曜日の朝、庭は水気満つる葉緑の陰、紫陽花や百合が咲き、小鳥が囀る。

家の一角“DEN”(巢、私室)と称している書斎に籠り好きな本を開く。目が活字を追う。時の立つのを忘れ、正に至福の時だ。

四月に赴任して不慣れな仕事にとまどう毎日だが、大きな楽しみができた。図書館を利用することである。まず書棚をあさる(ブラウジング)楽しみ。そして、読書欲をそそる本を存分に借りて、家で読書三昧に耽る。看護、医療系の充実に比して、文系は少し物足りないが、それでも宝の山である。

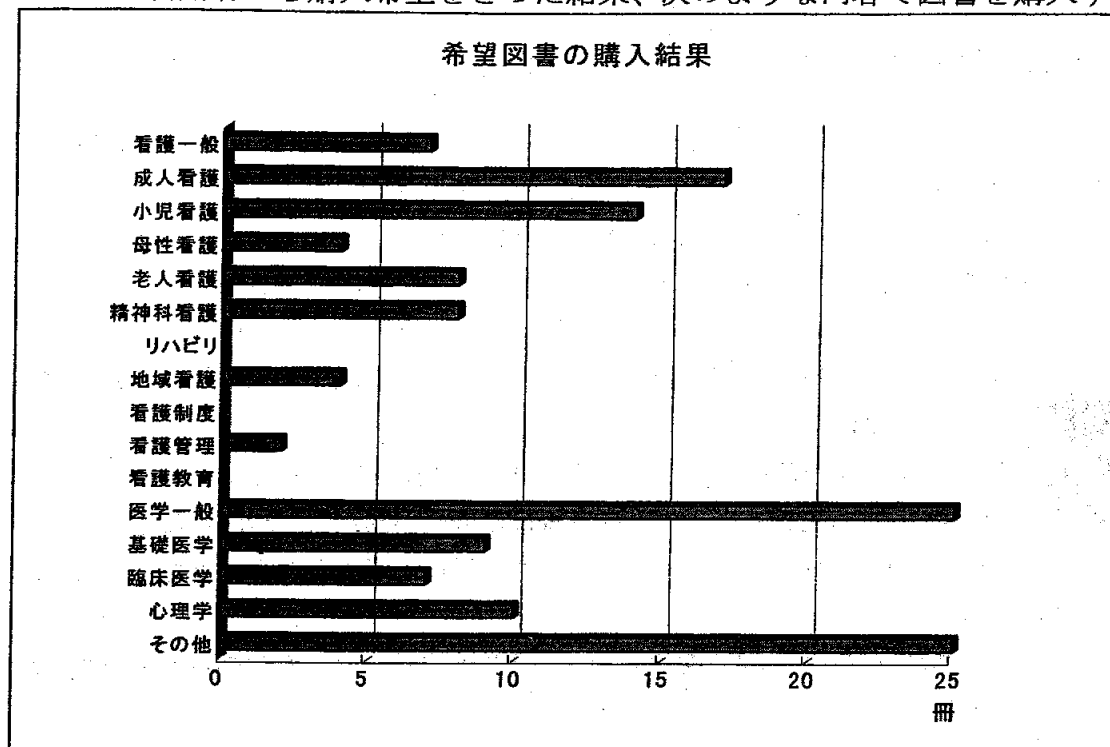
私も汗牛充棟には程遠いが、乏しい給金で長年コツコツと本を買ってきた。昨年、古い家を壊して新築した折に念願の書斎と書庫を作って、集めた好きな本、思い出深い本に囲まれて悦に入っている。これからも、筋の良い本を集めて、繰り返し読んでいきたい。

図書館を大いに利用して、新たな本との出会いを楽しみにしているところである。



希望図書の購入結果について

6月に利用者から購入希望をとった結果、次のような内容で図書を購入することにしました。



医学一般に分類される図書を多く購入することになりました。

また、今回は教員対象に全集やシリーズ物の希望を別にとった結果、『臨床精神医学講座』や『新女性医学大系』『日本女性史論集』などを今年度中は継続して購入することになりました。

学生の希望についてもすべて購入することになりました。品切れ・絶版等で購入できなかった場合は図書館の掲示板でお知らせします。

#### ～～貸出ベスト5～～

(4月1日～累計)

- 第1位 『看護診断にもとづく母性看護ケアプラン』医学書院 1988
- 第2位 『母性看護学2 産褥・新生児』医歯薬出版社 1995
- 第3位 『母性・新生児の看護ケア計画』HBJ出版局 1986
- 第4位 『看護学サマリー2 母性看護学』学習研究社 1993
- 第5位 『母性看護学 第2版』(看護学重点シリーズ7)金芳堂 1987  
『臨床老人看護講座2 老人患者の日常生活への援助』ジグアル社 1987  
『母性看護学1 妊娠・分娩』医歯薬出版 1994

※ 複数冊あるものは各貸出回数の合計から計算しました。5位までの図書はすべて複数冊所蔵しています。母性看護に関する図書がダントツで上位を占めています。他には糖尿病や小児看護、精神科・脳神経科に関する図書が多く借りられているようでした。

#### 寄贈図書一覧

今年4月1日から9月18日の間に下記の方々からご寄贈いただきました。ありがとうございました。(敬称略)

- |            |                                     |
|------------|-------------------------------------|
| 田中キミ子      | 上野一郎監修『心理アセスメントブック』                 |
| 関谷伸一       | Mアキス・L著『受精卵からヒトになるまで第3版』            |
| 五十嵐良一      | 山田瑞穂著『実地診療のための皮膚病学』                 |
|            | 小堀辰治ほか著『実地皮膚科学』                     |
|            | 石橋康正ほか編『痒みの強い皮膚疾患』                  |
| 前川幸雄       | 前川幸雄ほか著『初級中国語教本』2冊                  |
| 関口次郎       | 関口次郎著『新潟県上越地方の産婦人科医』                |
| 宮崎春枝       | 宮崎春枝著『花暦』                           |
|            | 〃 『花の四季』                            |
| 渡辺渡        | 豊田穰著『江田島教育』                         |
| 南イリノイ大学新潟校 | ジャレット・H・ドーン著『Degree 留学学位の取れない留学なんて』 |

#### 編集後記

今回は書評あり、エッセイありと盛りだくさんの内容で、ページも大幅に増え喜ばしい限りです。本号の感想、御意見等ありましたら次号に反映させたいと考えていますので下記アドレスまでお送り下さい。図書館業務に関することでも構いません。

tosyo@niiigata-cn.ac.jp

第3号から半年刊の発行となり、次号は来年3月を予定しています。